

KS SolutionNews

教育産業株式会社
 名古屋市中区丸の内3-18-28
 お問合せ 052-971-3011



「ICT教育の理想を具現化」充実の設備がもたらす多様性

「ICTを使い倒して欲しい。」学生一人一人に、オーダーメイドで対応できる学校運営を目指して

国際医療福祉専門学校さまでは、今期から学生にスマートデバイス iPadAir を1人1台配布を実施されています。同校では、一昨年より「ICT教育環境導入プロジェクト」を立ち上げ、ICT教育環境の整備を目指してきました。同校の取組みについて、ICT化担当としてシステム構築に携わられてきた小澤 貴裕先生にお話をうかがいました。

BYODで自身のiPadAirを学内で利用し、スマートデバイスの利点を実感されていた先生は、「この利点を授業でも使えたら」と考え、アイデアの実現に向け綿密な計画を立ててこられました。

「学生一人ひとりにわかりやすい授業を展開するためのツールとして、iPadAirを1人1台配布するプランを念頭に計画を練っていましたが、最終段階で、より統合的な整備プランへ拡張する方向になりました。」

スマートデバイスのより効果的な利用法を模索する中で、必要となる環境の整備にも意識が向き、ストレスフリーなワイヤレス通信環境や教室設備のマルチデバイス化も整備されました。

さらに教師と学生間の双方向型学習の実現のため設置した全面壁ホワイトボードもシステムの特徴の一つです。「あるゆる機材からの出力に対応しているインタラクティブ

プロジェクターを使えば、シンプルな壁面が巨大なディスプレイに変化します。」

授業で効率的に使用できるよう構築されたシステムは、これまで必要だった煩雑な動作を軽減し、機器を利用する人に快適な環境を提供します。

また、同校ではiPadAir配布前に学生に対し安全にインターネットを利用するためのネットリテラシー教育も実施しています。

実際の救急医療の現場でも最新ハイテク機材の投入やICTによる情報インフラの立ち上げが次々と進んでいます。

「学生のうちから、システムを体感することにより、情報コミュニケーションのスキルを磨き、ネットリテラシーを意識し獲得することは、多大なメリットとなります。」

計画性あるプランの中で実現していくICT化を楽しく使いこなしながら、目指す理想を追及していく姿勢から、今後も同校の取り組まれるセカンドプロジェクトに期待が集まります。



ICT教育環境導入プロジェクト担当
 救急救命学科
 学科主任 専任教員 小澤 貴裕 先生



国際医療福祉専門学校

救急救命士・理学療法士を養成するための専門学校。現場の即戦力として活躍できる人材の輩出を目指し、千葉大学と連携した解剖体見学実習を取入れるなど、知識と技術の獲得を重視した独自の実践的な授業システムを構築している。



ICT教育環境の整備

同校では、2012年から「ICT教育環境導入プロジェクト」を発足。わかりやすい授業を展開するためのツールとしてスマートデバイスを学生に1人1台配布するに至り、さらにツールを活用できるICT環境の整備を進めている。



救急救命士

プレホスピタル医療の専門家として、基本的に消防機関の救急車の中で、メディカルコントロールという医師からの遠隔指示のもと、高度な医療処置を行いながら、最適な医療機関に最短の時間で搬送する医療従事者の国家資格。



救急業務のICT化

総務省の救急業務のあり方検討会では、全国の自治体での救急業務におけるICT活用事例などをまとめ情報発信するなど、積極的な活用を推進している。タブレット端末の機能を生かした情報共有や情報発信の具体例が提示されている。